

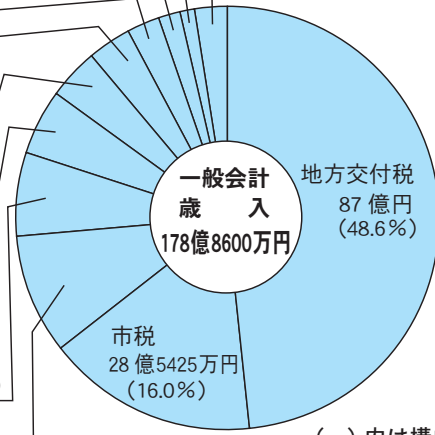
一般会計(歳入)

**市税負担は1人当たり
9万8392円**

市に入る1年間のお金が入ります。市民の皆さんに負担していただく市税は、国からの税源移譲などに伴い、前年度比16・0%増の28億5425万円を見込んでいます。1

その他	4億4845万円 (2.6%)	株式等譲渡所得割交付金	2500万円
自動車取得税交付金	1億4800万円	利子割交付金	2300万円
分担金及び負担金	1億1659万円	配当割交付金	1200万円
財産収入	4116万円	交通安全対策交付金	620万円
繰越金	4000万円	寄附金	150万円
地方特例交付金	3500万円		

地方譲与税	1億9600万円 (1.1%)
地方消費税交付金	2億7000万円 (1.5%)
諸収入	4億6197万円 (2.6%)
繰入金	5億6700万円 (3.2%)
使用料及び手数料	7億266万円 (3.9%)
国庫支出金	9億1765万円 (5.1%)
県支出金	11億5072万円 (6.4%)
市債	16億1730万円 (9.0%)



()内は構成比

人当たりで換算すると9万8392円(平成19年3月1日現在人口で計算)を納めていただくこととなります。市税や使用料など、市独自の収入だけでは財源が不足していますので、国から交付される地方交付税、国庫からの支出金、市債(市の借金)などを加えて市政が運営されます。

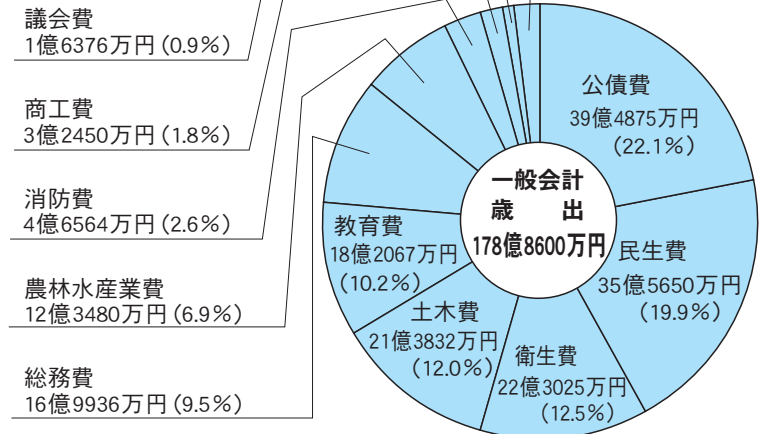
一般会計(歳出)

建設事業費を抑制し 喫緊の課題に対応

市が1年間に使うお金が歳出です。市民1人当たりで換算すると61万6567円で前年度と比較すると4万2684円の減となっています。歳出で最も多いのは、借金の返済金にあたる公債費の39億4875万円で歳出全体の22・1%を占めます。次いで、

歳入で最も多いのは地方交付税(国から交付されるお金)の87億円で、歳入全体の約5割を占めています。次いで大きな割合を占めるのが、市税(歳入全体の16・0%)、市債(借金)の16億1730万円(同9・0%)となっています。なお、市債は財政再建のために新規発行額を大幅に抑え、前年度比49・8%の大幅減としています。

その他	3億345万円 (1.6%)
労働費	1億2266万円
災害復旧費	9072万円
諸支出金	7007万円
予備費	2000万円



()内は構成比

高齢者福祉や障害者福祉などに使われる民生費の35億5650万円(歳出全体の19・9%)、ごみ収集や保健衛生事業、公立八鹿病院の建設負担金などを含む衛生費の22億3025万円(同12・5%)、私たちの生活に欠かせない道路や橋などの整備に使われる土木費の21億3832万円(同12・0%)と続きます。

歳出を性質別にみると、最も多いのは公債費の39億4875万円。次いで、人件費の31億665万円(歳出全体の17・4%)、一般会計への繰出金30億7493万円(同17・2%)と続いています。また、普通建設事業費は20億3630万円(同11・4%)で、前年度比45・2%の大幅減となっています。